



企業紹介

上野製薬株式会社

上野隆三*

1. はじめに

当社は創立以来食品添加物分野を最も得意とし、優れた技術力に基づいて、時代の要求に応じた多数の製品を開発し、社会に貢献してまいりました。

その後、食品添加物分野で培った技術力を活かして動物用医薬品分野にも進出し、多数の動物用医薬品ならびに製剤を開発し、畜産ならびに養殖業界に提供してまいりました。

さらに近年は、工業薬品分野にも業務を拡張し、工業薬品用原料ならびに中間体の製造を行うとともに、これらの原料ならびに中間体を有効に利用して、高付加価値製品に誘導することも行っております。この分野における当社の技術力の高さは、例えば芳香族ヒドロキシカルボン酸の製造技術に関する国家ならびに学界からの表彰によって端的に示されていると言えます。

2. 会社概要

社名	上野製薬株式会社
創立	大正7年8月
代表者名	取締役社長 上野隆三
資本金	1億円
売上高	約150億円
従業員数	約500名
所在地	
本社	大阪市東区高麗橋2丁目31番地
支店	東京
出張所	福岡, 札幌
研究所	伊丹
工場	四日市, 伊丹
海外法人	ニューヨーク

* 上野隆三 (Ryuzo UENO), 上野製薬株式会社, 取締役社長, 研究所長, 工学博士, 応用化学

事業内容

化学工業薬品, 食品添加物, 動物用医薬品, その他医薬品等の製造販売

3. 業務ならびに製品概要

3.1 工業薬品分野

この分野における当社の特徴は、合理的な製造プロセスにより、徹底した自動化を考慮した製造設備を用いて、工業薬品用原料ならびに中間体を高品質かつ低価格で製造できることです。これを支えるために研究開発に積極的に取り組み、基礎研究にはじまり、スケールアップ検討を経て工業生産に至るまで、独自の技術で迅速かつ的確に対応できる体制を整えております。

この分野で当社が最も得意とするのは、コルベ・シュミット反応による芳香族ヒドロキシカルボン酸の製造です。この反応による芳香族ヒドロキシカルボン酸の製造は、従来回分式固相反応によって行われてきましたが、当社では媒体を使用する画期的な連続式液相反応による製造プロセスを開発しました。これによって、低価格で、かつ高品質の製品を、大量に製造することが可能となりました。現在この製造プロセスで製造されているパラオキシ安息香酸とそのエステル類は、全世界の市場の約80%を占めております。また、同じ製造プロセスならびに製造設備を用いてヒドロキシナフトエ酸も製造されております。

このような画期的技術により高品質かつ低価格の芳香族ヒドロキシカルボン酸の供給が可能となったため、従来价格的に不可能と考えられていた農業中間体、高分子原料などの用途においても需要が見込めるようになりました。例えば、パラオキシ安息香酸は独自のニトリル化技術によってパラオキシベンゾニトリルに変換さ

れ、農業中間体として供給されております。また、パラオキシ安息香酸ならびに2-ヒドロキシ-6-ナフトエ酸はポリエステル原料として極めて有用であり、特にこれらを成分とする全芳香族ポリエステルは高性能繊維あるいは樹脂として注目を集めています。当社では、このような高性能高分子の開発にも力を注いでおります。

3.2 食品添加物分野

食品添加物が食品に添加される目的には、品質改良、保存性改良、栄養価改良、付加価値向上などがあります。このように広範囲な目的で使用される食品添加物は、食品本来の味、かおり、色などを損わないことはもちろんのこと、人体に対する高い安全性が保証されなければ用いることができません。

当社は約50年間にわたり、食品添加物分野において保存料を中心とする数々の優れた製品を開発するとともに、食品製造工程を考慮した独自の製剤化研究をすすめてまいりました。

例えば、蒲鉾などの水産練製品に用いられるソルビン酸製剤（商品名ソルマイティ）はその一つで、合成保存料であるソルビン酸にコーティング加工を施し、ソルビン酸をそのまま用いるよりも優れた効果が得られ、かつソルビン酸の食品に与える影響が小さくなるようにした製剤です。この製品は、水産練製品業界で使用される保存料の約60%を占めております。

また、従来すりみへの使用が不可能とされていた乳化剤を製剤化することにより、冷凍すりみの品質改良剤として開発し、同業界に対し独占的に納入しております。

3.3 動物用医薬品ならびに関連分野

動物用医薬品は、近年養殖、畜産などによる

動物性蛋白質の供給が大規模に行われるようになって、その必要性が急速に増してまいりました。すなわち、このように一時に多数の動物を飼育する場合、病気が発生しやすく、かつ発生した場合の影響も大ですから、飼育動物に対して病気の予防ならびに治療が必要となります。

当社では、評価機能を完備することにより、安全性の高い動物用医薬品を開発するとともに、需要家の要求に応じた機能を発揮するような製剤化研究を行っております。

例えば、動物用医薬品として、家畜ならびに養殖魚類の細菌性疾病に有効なフラン系薬剤を製品化しております。また、養殖におけるビタミン欠乏症などの予防、治療剤として独自の製剤技術に基づく被覆ビタミン剤（商品名サイアコート）を開発しております。当社は、これらの製品ならびに製剤技術をとおして殖養、畜産などの業界に寄与してまいりました。

さらに近年は、従来の化学的合成法に加えて最新の生物学的合成法をも駆使して、より広範囲な医薬品の開発を目指して努力を重ねております。

4. む す び

石油化学工業を中心とする化学産業は、今や確実に低成長の時代に入っております。その中において、企業として高い成長率を維持してゆくためには、優れた技術力が不可欠です。わが国の化学産業は、一般に優れた技術力を有するが、市場開発力において欧米の化学産業に後を取っているとされており、当社は長年培ってきた市場開発力を十分に活かして、この困難な時代を乗り切り、社会に貢献できるよう日夜努力を続けております。